

東日本ユニオン よこはま

J R 東日本労働組合
横浜地方本部
発行者/ 松田 和秀
編集者/ 教育・広報部

年末手当要求満額獲得！総決起集会開催！！ 要求満額獲得に向け組合員・社員77名が結集

横浜地方本部は、11月10日川崎市総合自治会館において「2017年度年末手当要求満額獲得総決起集会」を開催しました。集会には要求満額獲得に向け77名が結集しました。

集会主催者を代表して挨拶（要旨）を行った松田委員長は、景気は回復していると言いますが11月6日経団連が発表した「大手企業の冬のボーナス妥結状況」は昨年よりも1.19%減っているということであった。これは「労働組合がベースアップの底上げを優先したため」だと言われている。職場では今年のボーナスは下がるのではないかと予想屋が始まっている。JR 東日本は10月27日に第2四半期決算を発表し、単体決算は増収増益であり営業収入・運輸収入は6期連続増収かつ第2四半期決算としては過去最高。営業収益は6期連続増収かつ第2四半期決算としては過去最高と全ての利益が過去最高となった。これらの成果は様々な施策を担い安全・安定輸送を職場からつくりだし組合員・社員の成果だ。その一方で努力した組合員・社員の生活の不安は蔓延している。中央本部は10月3日に執行委員会で2017年度の年末手当要求を決定した。**1、「基準内賃金の3.6ヶ月分」とし、12月15日までに支払うこと。2、55歳以上の社員（昭和37年4月1日以前生まれ）に、一律5万円の加算をすること。3、エルダー社員の精勤手当に、一律5万円の加算をすること。4、グリーンスタッフの精勤手当に、一律5万円の加算をすること。**を10月16日に経営側に申し入れを行っている。この間、各分会では創造的な取り組みを行い、分会独自の情報作成、職場集会の開催、本部交渉団への激励行動、職場で働く組合員・社員の総団結で年末手当満額獲得実現に向けてたたかいを推し進め、本日の集会が再出発の場とし年末手当の回答まで職場からつくりあげていきたい。労働組合の垣根を超えるため、JR 東労組横浜地方本部・国鉄労働組合神奈川地区本部に共闘行動を要請してきた。**労働組合の力の分散は、会社の一人勝ちを認めてしまっている現実がある。**JR 労働運動の一元化を目指すために、横浜地方本部先頭に立って推し進めることを誓う。全組合員で職場から本部交渉団を支え、年末手当満額獲得を妥結するまでたたかいを進めて行こうと述べました。

本部交渉団を代表して経過報告（要旨）を行った中央本部生田書記長は、11月1日に第1回団体交渉が行われた。労働組合側から要求の趣旨を説明し、経営側からは現状認識について口頭で示された。交渉結果を振り返っていきたい。第2四半期決算については過去最高記録している。2001年以降の人件費を見ると約1,905億円も下がっている。社員数は1991年当時8万人だったが、現在では5万6千人となっている。機械化を含めてシステム化が進み社員を介さずにJR というものが運営をされているのは承知かと思うけど、その分1人当たりの労働密度は大変高くなっている。そういう意味ではこの過去最高を記録している業績に対して実感が有るかを問われた場合どうでしょうか？職場を見渡せば仕事はどんどんキツくなる、あるいは職場の建物が国鉄時代からのもので、給料も思ったよりも上がっていない、今回の景気が良いということ、好業績ということが肌感覚として掴みきれていないのかと思う。そういうことを要求の趣旨の中に盛り込みながら第2回目の交渉で会社にぶつけていきたい。経営側は、現状認識として春闘時期と変わらずネガティブ要素を前面に押し出した形となっている。「業績は良いが営業費用が高んでいる」「下期は、収入を慎重に見ていく



必要がある」「生産年齢人口の減少」そうしたものが見極めていかななくてはならない。将来に対する影響として「人事・賃金制度の見直し」「4期連続のベースアップの実施」「管理手当等の見直し」「扶養手当の見直し」等で基準内賃金・基本給が上がっていることから慎重に判断する必要がある。最終的には公共性が高い当社として突出感を与えてはいけないと言っている。過去最高の業績が出ていながら、労働環境はそれほど大きく改善されていない。しっかりと声をあげてその利益を還元させるべく主張をさせていただく。中央本部として共同行動要請を国鉄労働組合東日本本部、JR東労組中央本部に行ってきた。ジェイアールイーストユニオンに対しても「一緒にたたかきましょう」と連絡を行った。残念ながら良い返事は頂けなかったが、是非取り組みの中でも会社に対してたたかうという意思表示を様々な手段を用いて取り組んでいただければと思う。我々は労働組合が唾み合うのではなく、向かうべきは会社である。しっかりと「3.6ヶ月」を中心とする4つの要求に対し、満額を勝ち取るべく本部としても精一杯主張させていただく。その力となるのが職場での様々な取り組みである。会社も職場を見ている。組合掲示板を見ている。是非意識をして日々職場の中で「一緒にたたかうべきだよ」「ボーナス欲しいよね」という話を進めていただきたい。13日に第2回の交渉があります。皆さんの想いをしっかりと受け止めて中央本部が先頭になって全てのJR労働者の利益のためにたたかうこと約束し決意を含めて報告がされました。

基調報告(要旨)で足立書記長は、今年が会社発足30年。国鉄改革から30年が経った。この間様々節目の年と会社が社員に言うことが多いのかと感じている。職場では全社員を対象に30年を振り返る会社の歩み映像・パワーポイント等で見せている。当時を知らない若い社員・組合員はあたかも労働組合が闘争・運動・ストライキ等を起こし会社の規律を乱し腐敗させ莫大な赤字を生み出したかのように見えたのでは。当時様々な想いを抱き、悩みを抱え仕事をされた先輩たちが多くいる。先の見えぬ雇用不安、自分の仕事・家族の生活を本当に守れるのか苦勞されたと思う。その中で労働組合が組合員・家族の生活をどう守るのか、会社・鉄道をどのように残していくのか日々議論をし「現地現職で残る仲間」「故郷を離れ新たな地で仕事をする仲間」と改革を推し進め今のJR東日本という大きな会社があるのだということ。赤字だった国鉄が民営化され経営の在り方を見直してきた30年と単に振り返るのではなく、先輩たちの苦勞そして今職場で働く私たち、技術継承・会社を担う立場の重責を私たちは持ち、苦勞に対する労を応える会社であるべきだと思う。たたかひの先頭に立つ本部交渉団を支え要求満額獲得実現に向けしっかりと職場からたたかひを作り出さなければならない。今日この集會に結集し同じハチマキを巻、組合員の皆さんにこの場に結集していただいた。この集會に結集するのもたたかひである。77名の社員・組合員がこの場に結集している力を職場の運動に活かしていこう。地本は、年末手当要求満額獲得に向けたたたかひを3つの点を柱に取り組みを作り出しています。1つめは「全組合員参加型運動を追求し今日の集會に最大結集をしていこう」組合員と対話を通じ集會の声かけ、今行われている交渉経過、自分の所属する労働組合の運



動・情報を知らない組合員をつくらないこと。2つめは「情報活動を通じた取り組み」情報のタイムリーな発行、職場において労働組合が何をしているのか私たちが何を訴えているのかわかりやすい情報活動を職場で目指すこと。3つめは「一元化を意識したJR労働者の共同行動・結集をつくりだす」労働組合の労働条件維持・向上・年末手当・春闘・夏季手当要求等、職場で働く労働者共通の課題は多くある。労働組合がたたかうべき相手は会社である。分散した労働組合の現状は会社の一人勝ちを許し働く私たちの要求を勝ち得ることはできない。この間JR東労組横浜地方本部・国鉄労働組合神奈川地区本部に共同行動の要請を行ってきた。地本間での成果としては残念ながら表れていないのが現状である。しかし職場で働く他労組組合員のなかにも「何故バラバラにやるのか」「何で労働組合同士がいがみ合わなければいけないのか」という疑問は多くあげられている。私たち労働組合の向ける矢印の先は常に会社でなければならない。その方向が同じならば職場から小さいことからでも一緒に取り組みを作っていきたい。こうした取り組みを大きく広げていきたい。私たちの掲げる要求は「3.6ヶ月満額回答」である。本部交渉団も13日、第2回の交渉を行うという報告がありました。交渉の山場を迎える。私たちの満足できる回答を勝ち取るために最後まで全組合員で本部交渉団を支え、組合員一人ひとりが要求実現のために何か小さなことでも構わないので、職場から声・行動を取り組みとして推し進めて行こう。地本も組合員の先頭に立ち共にたたかひっていく決意を述べ報告しました。



要求満額獲得に向け、最後までたたかひめこう!!